

小川実紗

『観光と「性」：迎合と抵抗の沖縄戦後史』 (創元社、2023年) 合評会



【概要】

小川実紗著『観光と「性」』は、沖縄の戦後史を観光の観点から問い直した好著である。日本有数の観光地である沖縄において、なぜ観光が主力産業として選取られたのかを解き明かす本書は、日本本土と沖縄の関係やセクシャリティ、性産業と観光を考える上で重要な示唆を与えている。

本合評会では、本書の意義や学術的な貢献を明らかにするために、民俗学の松尾先生、女性史の峯先生からコメントをいただき、執筆者の小川先生に回答いただく。その後、質疑応答に移り、登壇者および参加者と「沖縄と本土」それに関わる観光と性について検討していきたい。

本合評会が、現代や過去の沖縄観光、本土と沖縄を考える機会になれば幸いである。

参加無料
事前申込不要

2025年3月23日（日） 14時～17時半

対面開催 会場 立命館大学朱雀キャンパス303教室

問い合わせ先：角田燎 (tsunoryu@fc.ritsumei.ac.jp)

評者：松尾有起（せとうち観光専門職短期大学助教）

峯桃香（立命館大学大学院社会学研究科院生）

応答者：小川実紗（せとうち観光専門職短期大学助教）

司会：角田燎（立命館大学立命館アジア日本研究機構専門研究員）

共催：人文科学研究所 重点プロジェクト：グローバル化と地域の多様性（diversity）

科学研究費若手研究 現代日本の戦後派世代にとっての「戦争と平和」：元自衛官の戦友会参加を手がかりに（代表者：角田燎）